

学校法人 高田学苑
高田短期大学育児文化研究センターだより

IKUBUN NEWS

第2号 2005.6.10

発行 高田短期大学育児文化研究センター
〒514-0115 三重県津市一身田豊野 195
TEL 059(232)2310(代表) FAX059(232)6317

『センター17年度総会』開催！

昨年10月1日高田短期大学育児文化研究センターが発足してから、早半年が経過しました。平成17年度初総会が、5月6日(金)16時30分より高田短期大学第4会議室にて開催されました。主な内容は、平成16年度の事業報告の承認、平成17年度の事業計画の承認のほか、研究員等のセンター組織や運営委員の報告でした(2頁に関連記事)。総会終了後は、センター顧問谷岡経津子先生による、総会記念講演“「和老天花」の人生模様”と題して行われました(3頁に関連記事)。

センターは、おかげ様で順調に歩み始めています。



平成17年度重点取組 子どもの「生きる力」をはぐくむプロジェクト事業

昨今、乳幼児から思春期にいたるまでの子どもの「生きる力」の弱体化が指摘され、この傾向は三重県においても同様であることから、子育て支援事業の中でも、特に、子どもの「生きる力」の回復と保障を促進するような支援の強化およびネットワークづくりが求められると考えられます。この視点から本事業は、子どもの「生きる力」を「遊ぶ力」「食べる力」「自然とかわる力」「仲間づくりの力」「メディアを読み解く力」と捉えて親子支援活動と子育て支援者のための支援活動を行うことによって、地域の教育力活性化をめざすことを目的とし、定例事業とならんで本年は7つの重点取組事業を計画しました(2頁・6頁に詳細記事)。早速6月と7月には、保育園児を招いてのクッキング保育・低年齢児の子育て支援のための施設開放、松阪における学童保育指導員のためのセミナー・保育者のためのリカレント等多岐にわたる内容が進行中です。研究員・客員研究員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



センター総会	1頁
平成十六年度事業報告	2頁
平成十七年度事業計画	3頁
総会記念講演 「和老天花」 谷岡経津子氏	3頁
定例研究会報告	4頁
出前講座の案内	5頁
紀要「育児文化研究」原稿募集	6頁
近日予定行事紹介	6頁
問い合わせ・アクセス	6頁

<6・7・8・9月のセンター事業>

- 6月10日(金) 「生きる力」をはぐくむ食育事業
- 6月14日(火) 第4回定例研究会
「虐待に関する事例報告」
- 7月2日(土) 0・1・2歳児のための「子どもひろば」
- 7月9日(土) 子どもの「生きる力」を支援する学童保育指導員のためのセミナー
- 7月12日(火) 第5回定例研究会
- 7月30日(土) 0・1・2歳児のための「子どもひろば」
- 7月31日(日) 子どもの「生きる力」を支援する保育者のためのセミナー
- 8月9日(火) 第6回定例研究会
- 9月3日(土) 0・1・2歳児のための「子どもひろば」

高田短期大学育児文化研究センター 平成17年度総会概要

平成16年度事業報告<平成16年10月~平成17年3月分の実績>

- (1) 高田短期大学育児文化研究センター設立(10/1)
- (2) 運営委員会の開催(9/28~3/30 8回)
- (3) 馬とふれあう課外活動(11/23)
- (4) 高田短期大学育児文化研究センター開設記念式典(12/18)
- (5) 定例研究会(1/18 2/15 3/15 3回)
- (6) 講師派遣事業(出前講座)(12/22~3/18 計7件)
- (7) 育児文化研究センターだより「IKUBUN NEWS」創刊号発行(2/1)
- (8) 電話による子育て相談事業(5件)

平成17年度事業計画<平成17年4月~平成18年3月>

- (1) 総会(5/6)
- (2) 0・1・2歳児のための「子どもひろば」(6回実施)
- (3) 「生きる力」をはぐくむ食育事業(3回実施)
- (4) 馬とふれあう親子支援事業(1回実施)
- (5) 子どもの「生きる力」を支援する
保育者のためのセミナー(2回実施)
- (6) 子どもの「生きる力」を支援する
学童保育指導員のためのセミナー(1回実施)
- (7) 親子で楽しく学ぶホームページづくりと
メディアリテラシー(4日間コース1回実施)
- (8) 研究紀要「高田短期大学育児文化研究」創刊
(平成18年3月)
- (9) 定例研究会(毎月第2火曜日を原則として実施)
- (10) 講師派遣事業(出前講座)(年間随時)
- (11) 育児文化研究センターだより「IKUBUN NEWS」発行(年間2~3号)
- (12) 子育て相談事業(年間随時 電話・面談・観察による)
- (13) 運営委員会の開催(月1回)



センターの活動が紹介された「三重ふるさと新聞」記事

(H17.4.14)

平成17年度運営委員

豊田和子(育児文化研究センター長)
田口鉄久(同 主任研究員)
武川眞固 梶美保 榊原耐津子 以上5名

平成17年度組織

センター長	豊田和子 (幼児教育学科 教授)
主任研究員	田口鉄久 (幼児教育学科 助教授)
研究員	石井啓子、植木存、梶美保、栗原廣海、榊原耐津子、田口鉄久、武川眞固、千草篤麿、豊田和子、内藤由佳子、福西朋子、三宅啓子、山本敦子、采筆真澄、鷲尾敦(以上、本学専任教員)
客員研究員	池上綾子、糸川京子、今吉未宝、岩附啓子、浦中浩一、大蔵香代子、川村きみ子、北端一子、駒田聡子、鈴木照美、ダイクス京子、田中厚好、豊田ひさき、朴恵淑
顧問	櫻井實(三重大学名誉教授、医学博士) 谷岡経津子(四日市大学総合政策学部教授) 太田和子(前三重県国公立幼稚園長会会長、四日市市立富田幼稚園長)

センターは、年間を通して、各種事業を行い、地域の子育て支援、子どもの教育や福祉の課題に実践的に取り組めます。

総会の記念講演「和老天花」の人生模様

講師 四日市大学総合政策学部教授
谷岡経津子 先生

広く生涯学習の立場から、今日の子育てや保育をめぐる問題に目を向けようという意味でユニークなタイトルを提示していただき、内容の濃いお話でした。その概要は次のとおりです。



1. 「自然から学ぶ」知恵

1762年ルソー（仏）が有名な教育書『エミール Emile』の中で「自然は子どもが大人になる前に子どもが子どもであることを望んでいる。その順序をひっくり返すと成熟もしない味わいもない、そしてすぐ腐ってしまう速成の果実を結ばせることになる」と述べた文章を引用されながら、人生の中の幼児期の大切さについて自然界を例に挙げて再確認しましょうと話された。

2. 世界人権宣言第1条

人権宣言の中で「すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊厳と権利について平等である」と謳われているように、幼児は大人の付属物ではなく、一個の独立した人間であるということをしっかり認識しておく必要があると述べられた。

3. 生涯学習の観点から学校教育を見つめなおそう

生涯学習とは人々が生涯にわたって行う学習を援助・支援するためにある。幼児・児童教育においては、家庭・学校（幼稚園・保育所）・社会の教育機能の連携と総合的な整備充実が必要であると提言された。

4. 子どもの居場所（活動拠点）づくり

県が推進している地域資源を活用したボランティア活動やスポーツ及び文化の体験活動などの促進を通じて、様々な分野からの地域の教育力の再生を実現する方策を示された。

そして講演の締めくくりとして、「高田短期大学育児文化研究センター」の役割は大きく、今後に大いに期待したいという温かい励ましのお言葉を頂戴しました。

<先生、ご多忙の中を大変有意義なご講演をありがとうございました。満場拍手>

《資料の一部》



定例研究会報告（第1回～3回分）

定例研究会は、毎回20～10数名の研究員・客員研究員の出席を得て定着しつつあります。

第1回

平成17年1月18日開催

第1回研究会では、「育児文化研究センターにかかる研究の視座」というテーマで豊田和子研究員がレポートしました。

今日の子育てや保育をめぐる問題に目を向けようという意味で、次の内容を扱いました。

・少子化問題をどう読み解くか
 ・これからの研究の角度、視点についてで、(1)教育学の課題としての少子化を打開する視点、(2)子育て支援の進め方の視座～すべての子どもと親支援の考え方、(3)次世代育成の考え方～「育てられる者」から「(生み)育てる者」への構造的変容、(4)幼保一元化、総合施設の問題について、レポートを行いました。

第2回

平成17年2月15日開催

第2回研究会では、「ごっこ遊びの魅力と援助について」というテーマで田口鉄久研究員がレポートしました。ごっこ遊びは幼児期の代表的な遊びです。ごっこ遊びの事例を(1)ルール性の理解、(2)演じることへの興味、(3)言葉表現の豊かさ、などの観点から分析してレポートしました。ごっこ遊びは総合的な活動ですが、上記のような側面から捉え直してみると、その教育的意義が整理でき、保育者の援助のあり方も明確になってくると思われます。参加者からは「確かな生活経験がごっこ遊びを豊かにする」「絵本などを通して心を揺り動かされる体験がごっこ遊びを生み出す」「低年齢時期の一人遊びへの没頭がイメージ豊かな遊びの基礎をつくる」などの意見をいただき、学びが深まりました。

第3回

平成17年3月13日開催

第3回研究会では、子どもの人権からみた「児童虐待」というテーマで武川眞固研究員がレポートしました。報告では、子どもの人権の側面から第1に、「児童虐待」の背景と現代社会の様相について、その特徴と考え方を整理し、特に「児童虐待」について個人・家庭・社会という領域で諸要因を明らかにしました。第2に、子どもの人権からみた「児童虐待」について、なぜ子どもの人権が重要なのか。子どもの人権の否定としての「児童虐待」の特質を解説した。第3は、子どもの人権救済とその解決方法について、現行制度を含めて虐待の対応と法制度及び親への援助のあり方について、若干問題を整理した上で、最後に、今後の課題を提示しました。質疑では、虐待の現状とその解決方法について意見交換がなされました。

定例研究会

現在の子どもの問題や保育、福祉の課題を学び深めることを目的にしています。様々なテーマで理論的な研究や実践的な研究を出し合い、お互いに学びあえる場にしていきたいと考えています。研究員・客員研究員の先生方からの積極的なレポートを要望します。どうかよろしく。(運営委員田口より)

平成17年度出前講座のご案内

センターが幼稚園や保育園、各種団体に出向いて研修の援助を行うもので平成17年4月～平成18年3月までの企画は以下の通りです。県内各地の幼稚園・保育所等から問い合わせや申し込みが多数きています。

No.	講座内容(テーマ)	(内 容)	(対 象)	氏 名	担当時期	担当地域
1	幼い子どもの発達と大人のかかわり	乳幼児の心の発達と、それに見合った大人のかかわり方について学習します。	家庭教育教室、子育て支援団体	豊田和子	要相談	県内全域
2	子どもの見方と保育者の援助について	遊びや生活場面での一人ひとりの子どものとらえ方と、見通しのある保育者の援助について学習します。	幼稚園教諭、保育士			
3	幼児のリトミックあそび	「幼児の身近な事象や経験をテーマにしたリトミックあそび」の体験と指導法	幼稚園教諭・保育士	三宅啓子	土曜・日曜・8月(要相談)	北勢・中勢・南勢志摩地区
4	子どもの歌あそび	楽しいコミュニケーションと表現あそびの体験学習	幼児教育関係者・幼児及びその親子			
5	子どもの人権と児童虐待	子どもの最近の状況と現代社会の情景を把握しつつ、子どもの権利条約・人権宣言をふまえて、児童虐待及び体罰を考えたその救済方法を探ってみる。	保育関係者・保護者	武川真固	土曜日(要相談)	北勢・中勢地区
6	憲法のこころと子どもの人権	日本国憲法のこころ(精神)をわかりやすく説き、憲法がめざす子ども観を考え、子どもの人権の現状をふまえて、なぜ子どもの最善の利益が優先され、保護されなければならないのかを考えてみる。	保育関係者・保護者			
7	電子絵本作成	子どもが楽しめるマルチメディア電子絵本の制作の方法について学び、簡単な作品を作る。	幼稚園・保育所等の関係者	鷺尾 敦	要相談	中勢・北勢地区 中心、場所・要相談
8	園のホームページ制作	題材を園の情報発信として、ホームページの制作方法から公開までの知識と技術を学ぶ。	幼稚園・保育所等の関係者			
9	子どもパソコン教室	発達段階に応じた子ども向けのパソコン体験教室。基本的に何かを制作することを通して、コンピュータリテラシーを身につける。	小学生低学年、高学年、中学生			
10	障害児保育について	各種障害の理解、発達段階に応じた保育 等	保育関係者、保護者	千草篤彦	土曜・日曜・祝日	北勢・中勢・南勢志摩地区
11	仏教の根本理念と保育	あらゆるいのちの平等を知り、お互いに慈しみ悲しみ合っていかなければならないということの根拠を考え、保育の根本精神は「縁起」にあることを伝えたい。	保育関係者、保護者	栗原廣海	水曜・木曜日(要相談)	北勢・中勢・松阪・南勢志摩・上野地区
12	保育と観察(かんざつ)	人間のものの見方、考え方の問題点を明らかにし、子どもを見る目について考えたい。	保育者、保護者			
13	拝むということと祈るということ	「のたま」に子どもと共に手を合わせ拝むことの意味を、「お祈り」と比較して考えたい。	保育者、保護者			
14	0・1・2歳児の発達と子育て、保育	0・1・2歳児の発達のみならず、具体的な子育ての技術、大切にしたい子育てのポイント等。	保育者、保護者	梶 美保	要相談	県内全域
15	乳幼児の事故予防	乳幼児の事故の実態とその予防、具体的な応急処置(心肺蘇生法etc)等。	保育者、保護者			
16	保育実践研究	乳幼児理解の方法と保育指導のあり方について検討	幼稚園教諭、保育士	田口鉄久	要相談	県内全域
17	就学前教育・保育をめぐる課題	保・幼・小の連携、幼保一体化問題、保護者・地域との連携などについて考える。	幼稚園教諭、保育士			
18	知的障害(児)者とその家族への相談援助	障害者の福祉サービスにかかる支援の実施主体が市町村に移されたが、当事者の思いや願いに向かい合う相談支援の体制づくりの課題の達成は急務である。相談支援の職員を養成することも又大事な課題である。	市町村障害福祉関係職員、民生委員、児童委員など	植木 存	夜間も可	県内全域
19	子育て不安の社会化と子育て支援の社会化	子育て不安の社会的広がりを通して現代の家族問題を社会問題の視点から説明するとともに子どもの背後にある親の生活の全体性を理解しながら子どもの最善の利益について考える。	市町村保育担当者、保育所関係者、民生委員、児童委員など			
20	保育現場における対人援助技術	対人援助の基礎(ケースワーク)、相談援助の実践(ワークショップ)	児童福祉施設、保育所職員	石井啓子	土曜日、平日の夜間18時～21時(要相談)	県内全域
21	家庭の日常生活に於ける子育て	幼児をとりま(環境とその問題点を踏まえ、今、求められている子育てについて)	乳幼児をもつ母親、父親	池上綾子	水曜・木曜日	中勢を中心に
22	集団生活としての幼児教育、その具体的実践	幼児をとりま(環境とその問題点を踏まえ、今、求められている保育園、幼稚園における教育について)	保育者全般			
23	子どもと共に創り上げる保育	今の子どもたちには躍動感あふれる体験が必要、ドキドキワクワク、おもしろさを追求した保育実践	幼稚園教諭、保育士	岩附啓子	要相談	要相談
24	私の出会った絵本	絵本の読み聞かせの後、子どもたちのイメージをふくらませながら遊びへと発展させていった保育実践	幼稚園教諭、保育士			
25	英語コミュニケーションの基礎	歌やチャップリンを通して、英語のリスニングに慣れる。ゲームやシミュレーションで英語コミュニケーションを図る。1行～3行会話でコミュニケーション	小・中学生	大蔵香代子	土曜、日曜日	県内全域
26	家庭でのしつけ	親と子のかかわりについて	乳幼児をもつ保護者	川村きみ子	要相談	北勢・中勢・松阪地区(要相談)
27	環境教育(誰が取り組める実践的環境教育)	身近な環境問題(大気汚染・水質汚染・ゴミ問題)について講義または簡単な野外実験を行う。	保育園・幼稚園・小学校・中学校	朴 恵淑	要相談	中勢・松阪地区
28	NPO活動(身近な環境活動)	地域の環境問題への取組のできるNPO活動のあり方について講義可能。	一般市民・大学生・高校生			
29	実践的国際交流(民間レベル)	国レベルではなく、民間レベルで可能な国際交流について一緒に考え、実践的な取組可能なことから始める。	小学校・中学校・高校・大学・一般市民			
30	「造形あそび」をみんなで楽しませよう	絵画(描画)造形を身体を使いながら幼児一人ひとりの個性を発揮させ、天真爛漫な素朴さの独創的豊かな創作活動を目的として行う。	保育園、幼稚園、入園前も可能(2歳から)	田中厚好	春(3～5月)、秋(10～11月後半) 夏、冬でも、それぞれの四季にあった造形あそびや造形指導があります。祝日、土、日曜日の場合は指導者向け可能。	出来るならば、本学卒業生の就職先(保育園・幼稚園)を中心に出席講座希望。
31	「造形あそび」による指導者向けの造形描画指導法	「造形あそび」を指導者側が実際に体験しながら、独創的な描画造形を創作した喜び感動を味わい、本来の意図とする創造的想像力の育成。造形教育とは全教育の基盤にもつながるとの意義を認識してもらおう。	幼稚園教諭、保育士(養護施設含む)			
32	保育時間での描画、造形指導とは...	だれもが楽しめる描画、造形技法また指導、メニューの一部を体験しアートの表現多様性、可能性に触れることで創造的な能力が広がり、今まで気づけなかったオモシロさを示してくれるような実感できるような授業と考えている。	保育園、幼稚園(2歳から)、保育士、幼稚園教諭と一緒に			
33	うたって・おどってあそぼう!	楽しい保育、元気の出る保育、体を動かしたものを目的としたもの(パネルシアターなど)	保育士、教諭、保護者(幼児)、保育士を目指す学生	浦中浩一	土・日(要相談)	指定無
34	ふれ合いあそび	体と体のふれ合いを通して、今しかできない音楽などを通してのふれ合いあそび	保育士、教諭、幼児(保護者と一緒に)、乳児			

6月～9月の事業紹介

7/9

7/2・7/30



6/10



7/31

紀要「育児文化研究 創刊号」の原稿募集

- ・ センターの紀要として毎年3月に刊行します。
- ・ 内容は、研究論文、調査報告、実践報告、資料・文献等の紹介です。
- ・ 投稿者は、顧問・客員研究員・研究員です。
- ・ 詳細は、別途投稿規程をご覧の上、ふるって応募して下さい。

センターへのお問い合わせ・アクセス

高田短期大学育児文化研究センター

住所 〒514-0115
三重県津市一身田豊野 195
Tel (059)232-2310
Fax (059)232-6317
高田短期大学 内線 123 番
Mail ikubun@takada-jc.ac.jp



センターが発足して早半年、出前講座の問い合わせに追われているセンター長。本年度の事業は盛りだくさん、地域の皆様に活用され、愛されるセンター活動は皆様のご理解と協力のもとに成り立っています。(M・K)

編集後記



